

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01589

研究課題名（和文）コミュニティ・オーガナイズの理論と実践に関する基礎研究

研究課題名（英文）A Basic Research for Theory and Practice of Community Organizing

研究代表者

室田 信一（Murota, Shinichi）

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：00632853

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では4年間で20回を超える研究会を開催し、コミュニティ・オーガナイズに関わる研究者や実践者と共に、理論的な整理と実践の結びつきについて研究を重ねてきた。コロナ禍で研究を行うことになったが、海外とオンラインで接続して研究会を開催することもできた。その研究成果として、2023年8月に書籍『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践 領域横断的に読み解く』を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化の進行とともに戦後の社会構造に変化が求められる中、社会の変化に対して不安を抱えている市民は少なくない。コミュニティ・オーガナイズとは社会的に脆弱な立場に置かれた市民が、自分たちの声を大きくし、共同して、身近な生活圏域から大きな社会構造に至るまで、その変化に対するオーナーシップを抱くための実践であり理論である。日本でもそうしたコミュニティ・オーガナイズの考え方に対して、注目が集まっており、研究も増加している。本研究はそうしたコミュニティ・オーガナイズの研究を、学際的な視点から多角的にまとめ、今後の学術的研究の基盤を構築したという意味において、意義深い研究になったといえる。

研究成果の概要（英文）：Over the four years of this research, more than 20 study groups were held (five of which were open to the public), and researchers and practitioners involved in community organizing were invited to study both theory and practice of community organizing. Since our research period was taken place during the COVID-19 pandemic, we were not able to conduct the research abroad as originally planned. We were, however, able to hold research meetings connected to the USA and the Philippines using an online system.

As a result of this research, the book "Theory and Practice of Community Organizing: Understanding from Interdisciplinary Perspectives" was published from Yuhikaku in August 2023. We believe that we were able to compile research that will serve as a foundation for community organizing research in Japan.

研究分野：社会福祉学

キーワード：コミュニティ・オーガナイズ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究開始当初、日本におけるコミュニティ・オーガナイズムの研究蓄積はほぼ皆無であった。CiNiiなどの論文検索サービスで調べると、本研究のメンバーである室田や小田川、石神などによる論文と、NPO 法人コミュニティ・オーガナイズム・ジャパン (COJ) の関係者による実践報告などが該当する程度であった。そもそも、コミュニティ・オーガナイズムとは実践領域であり、海外においても、学術領域として確立したものではなく、社会福祉学や社会学、政治学、経済学、教育学、都市開発学、ジェンダー研究など幅広い領域の中でそれぞれ深められてきた。

(2) 日本国内の実践に関しては、COJ が 2014 年に設立され、コミュニティ・オーガナイズムの研修が定期的に提供されるようになった。また、2015 年～2016 年にかけてアメリカのコミュニティ・オーガナイザー養成研修で最も著名な Midwest Academy の講師を招いたワークショップが法政大学大学院で開講され、少しずつではあるが、日本におけるコミュニティ・オーガナイズム実践の萌芽が見られるようになっていた。一方で、学術的な整理や議論の深まりは進んでいない状態であった。

### 2. 研究の目的

(1) 第一の目的は、日本国内におけるコミュニティ・オーガナイズム研究の基盤を確立することである。既述のように、コミュニティ・オーガナイズムは特定の学術領域に限定されることなく、さまざまな領域で推進されてきている。また、コミュニティ・オーガナイズムという概念は用いられていないものの、実態としてはコミュニティ・オーガナイズムに該当する実践があり、それらの実践に関する研究が蓄積されてきている。したがって、本研究では、まずはコミュニティ・オーガナイズムの理論的な整理を学際的に行い、さらに、コミュニティ・オーガナイズムの輪郭を整理することで、コミュニティ・オーガナイズムに該当する実践範囲を指し示すことが目的である。

(2) 第二に、理論的な整理を通して示されたコミュニティ・オーガナイズムの輪郭を参考に、日本国内でコミュニティ・オーガナイズムを推進際に求められるコミュニティ・オーガナイザーの養成方法とコミュニティ・オーガナイズムの実践の評価方法について整理し、示すことである。

### 3. 研究の方法

(1) 研究を推進する上で、まず重要になることは、コミュニティ・オーガナイズムを多角的に捉えるための学際的な研究基盤の確立である。本研究では、定期的な研究会を開催し、本研究に関わる学際的なメンバーの研究報告に加え、コミュニティ・オーガナイズムに関わる研究や実践をしている外部の講師を招き、研究会を開催する。

(2) コミュニティ・オーガナイズムの研究を体系的に整理することを目的に、英語論文をレビューし、コミュニティ・オーガナイズム研究の変遷を整理する。具体的には Ebsco Host を用い、コミュニティ・オーガナイズムの定義を明示している研究を抜粋し、それらの内容を分析する。

(3) 海外のコミュニティ・オーガナイズムの先進地の実践及びその研究を参照するために海外調査を実施し、その内容を国内の研究に反映する。コミュニティ・オーガナイズムの実践・研究の蓄積が豊富なアメリカに加え、アメリカの影響を受けてコミュニティ・オーガナイズムを自国の文化に取り入れてきた韓国やフィリピン、オーストラリアなどを調査対象とする。

(4) 国内における学際的な検討と海外の実践・研究の調査を参考に、日本国内におけるコミュニティ・オーガナイズムの展開について検討する。とりわけ、コミュニティ・オーガナイザーの研修方法とコミュニティ・オーガナイズムの実践評価の方法について、国内外の実践や研究を整理し、日本におけるコミュニティ・オーガナイズムの推進方法を示す。

### 4. 研究成果

#### (1) コミュニティ・オーガナイズム研究の歴史的な整理

英語論文のレビューを通して、コミュニティ・オーガナイズム研究を大きく 3 つの段階に整

理した。第一段階は、20世紀初頭から公民権運動までの期間で、主には民間団体によるコミュニティ活動の調整や計画的な資源の分配（ソーシャルプランニング）がその主なものであった。第二段階は、公民権運動に端を発し、対抗的な手段を用いて、抑圧された当事者がパワーを獲得する活動（ソーシャルアクション）に重きが置かれた。第三段階は近年のコミュニティ・オーガナイズング実践の特徴として、合意形成型のオーガナイズングや連合の組織化（コアリション）に重きが置かれる実践など、民間団体による活動が政府機関や大学などと協働でプログラムを実施する傾向が確認された。

#### （2）コミュニティ・オーガナイズングの研修のあり方

国内のコミュニティ・オーガナイザー養成プログラムを開発する上で、国内外の8つのオーガナイザー養成プログラムを比較検討し、養成プログラムの構成要素を抽出し、分析した。その結果、どのプログラムもなぜ組織化するのか、何をどのように組織化するのか、何のどのような変化をどのように起こすのか、どのようにアクションし、評価するのか、の4つの要素が含まれていることが明らかになった。とはとの構成要素になっており、とは一体として捉えることもできる。

#### （3）コミュニティ・オーガナイズングの評価のあり方

まず、コミュニティ・オーガナイズングの評価を検討するにあたって、コミュニティ・オーガナイズング実践の特徴を3つに整理した。第一にリーダーシップを育てるということ、第二に行動のアカウントビリティとしての自己利益の位置付け、第三に短期の変化ではなく、その蓄積として長期的な変化を位置付けることである。その上で、独立した第三者が実施する伝統的な評価方法ではなく、関係者による参加型の評価のあり方について検討し、提案した。

#### （4）コミュニティ・オーガナイズングの国際的な動向

本来は海外のフィールドワークを予定していたが、研究期間がCOVID-19による世界的なパンデミック期と重なったため、残念ながら海外でのフィールドワークはほとんど実施できなかった。しかし、オンラインのビデオ会議ツールが世界的に普及したため、海外の研究者や実践家とオンラインでつないで、研究交流をすることができた。アメリカ、韓国、フィリピンの実践について学ぶ機会を得たが、当初予定していた環太平洋エリアにおけるコミュニティ・オーガナイズングの普及の変遷について検討するところまでは到達しなかったため、今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 室田信一・小山宰	4. 巻 38
2. 論文標題 コミュニティ・オーガナイズングに関する英語文献のレビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学報 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 73-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小田川華子	4. 巻 3
2. 論文標題 韓台ジェンダー・アクティヴィズムの日本社会への示唆：コミュニティ・オーガナイズングの枠組みによる考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローバル・コンサーン	6. 最初と最後の頁 145-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤井敦史	4. 巻 20(2)
2. 論文標題 連帯の技法としてのコミュニティ・オーガナイズング：イースト・ロンドンにおけるコミュニティ開発の現場から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ノンプロフィット・レビュー：日本NPO学会機関誌	6. 最初と最後の頁 107-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 津富宏	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 支援とは何か：自治としての支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校メンタルヘルス	6. 最初と最後の頁 139-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室田信一	4. 巻 169
2. 論文標題 地域共生社会の光と影	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊福祉労働	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 テリー・ミズラヒ, 室田信一 [訳], 小山幸 [訳]	4. 巻 517-3
2. 論文標題 コミュニティ・オーガナイズングの原則と実践ガイドライン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田徹	4. 巻 729
2. 論文標題 『ローカル・コモンズとしての森』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊自治研	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田徹	4. 巻 735
2. 論文標題 自治の生活綴り方教室	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊自治研	6. 最初と最後の頁 65-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室田信一・小山宰	4. 巻 516-3
2. 論文標題 地域活動を支える住民の価値意識 - - 主体性概念の再検討を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津富宏	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 静岡方式による就労支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 40-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Tsutomi	4. 巻 13
2. 論文標題 Re-organizing Community as a Mutual-Aid Entity: A Case from Shizuoka	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Policy Science	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 室田信一・小山宰
2. 発表標題 地域活動を支える住民の価値意識 - - 東京都A市における参加型アクションリサーチを踏まえた住民の主体性の探索
3. 学会等名 日本社会福祉学会第68回秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津富宏
2. 発表標題 静岡方式と言われる青少年就労支援ネットワーク静岡の取組み 支援から自治へ
3. 学会等名 第22回日本NPO学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Tsutomi
2. 発表標題 Commoning the Community through Job Support
3. 学会等名 International Conference Social Solidarity Economy and the Commons（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 石神 圭子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 328
3. 書名 ソール・アリンスキーとデモクラシーの挑戦	

1. 著者名 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（分担執筆：室田信一）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 376
3. 書名 ソーシャルワークの理論と方法 [ 共通科目 ]（分担執筆：「コミュニティ・オーガナイズング」）	

1. 著者名 篠田徹ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 262
3. 書名 福祉国家の転換ー連携する労働と福祉	

1. 著者名 上野谷加代子編著（分担執筆：室田信一、藤井博志）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 314
3. 書名 共生社会創造におけるソーシャルワークの役割 - - 地域福祉実践の挑戦	

1. 著者名 ジャスティン・ゲスト（訳者：石神圭子他）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 406
3. 書名 新たなマイノリティの誕生ー声を奪われた白人労働者たち	

1. 著者名 藤井博志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 182
3. 書名 地域福祉のはじめかた	



1. 著者名 上野谷加代子・松端克文・永田祐編著（分担執筆：室田信一、渡辺裕一）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 180
3. 書名 新版よくわかる地域福祉	

1. 著者名 木下大生・鴻巣麻里香編著（分担執筆：渡辺裕一）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう！ - はじめの一步を踏み出すための入門書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ORGANIZER'S TOOL BOX  <a href="https://co-tool.info/">https://co-tool.info/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	石神 圭子  (Ishigami Keiko)  (20640866)	福岡女子大学・国際文理学部・講師   (27103)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	津富 宏  (Tsutomi Hiroshi)  (50347382)	静岡県立大学・国際関係学部・教授    (23803)	
研究分担者	篠田 徹  (Shinoda Toru)  (60196392)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授    (32689)	
研究分担者	藤井 敦史  (Fujii Atsushi)  (60292190)	立教大学・コミュニティ福祉学部・教授    (32686)	
研究分担者	藤井 博志  (Fujii Hiroshi)  (60336815)	関西学院大学・人間福祉学部・教授    (34504)	
研究分担者	小田川 華子  (Odagawa Hanako)  (60424991)	東京都立大学・人文科学研究科・客員研究員    (22604)	
研究分担者	渡辺 裕一  (Watanabe Yuichi)  (70412921)	武蔵野大学・人間科学部・教授    (32680)	
研究分担者	山崎 憲  (Yamazaki Ken)  (80885301)	明治大学・経営学部・専任准教授    (32682)	
研究分担者	竹端 寛  (Takebata Hiroshi)  (90410381)	兵庫県立大学・環境人間学部・准教授    (24506)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 潤子  (Shimizu Junko)  (90914606)	武蔵野大学・人間科学部・助教    (32680)	
研究分担者	林 大介  (Hayashi Daisuke)  (60708379)	東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員    (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関